

同窓会館にご協力を

湖陵同窓会長 久本 甫

平成九年の暮開けは、前年暮れに起こったベルー日本大使館人質事件でありました。

私には国際情勢、政治国家のこととはよくわかりませんが、暴力行為で己の主張を通そうとすることは理解に苦しむところであり、まして、現実問題として、人質となつていらっしゃる方々のご家族のことを思いますと、一刻も早く平和的な解決により無事終わることを願うばかりであります。

さて、釧中、湖陵の同窓会館が立派に完成しました。現校舎の敷地内、緑ヶ岡の高台より遙か太平洋を望む一角に「ノアの箱船」をイメージした大変ユニークな素晴らしい会館でございます。

この同窓会館には、学校創立以来の貴重な記録、資料、同窓生制作による芸術作品などを保存展示するためのギャラリーと、在校生の部活動、同窓会やP・T・Aの各種会合等に利用できる和室が設備されています。同窓生はもとより在校生にとっても広く利用できる教育設備として大変価値のある者と確信いたします。

この会館の建設資金は、全て、同窓生お一人お一人からの募金、寄付並びに協賛くださる企業等の寄付によって賄わなければなりません。建設事業協賛会及び実行員会の役員はじめ、同窓会各期の幹

事の皆様が懸命の努力をいたしてありますが、未だ目標額に達し及ばない現状にございます。

同窓生の皆様並びに関係各位にお願いを申し上げます。この同窓会館建設の趣意にご理解とご賛同を賜り、募金、寄付活動に對しまして、今一度お力をお貸しください。まだ、募金、寄付を行っていない同窓生の皆様につきましては、何卒ご協力をお願い申し上げます。

最近、私のところへ、同窓生はじめ関係者の皆様から叱咤激励の言葉が数多く寄せられております。どなたのご意見も貴重であり、ありがたいことだと思っております。本当にうれしく、「湖陵魂はまだ生きています」同窓生一人ひとりが同じ気持ちを持っていらっしゃるなら、必ずこの募金活動は成功すると勇気づけられたところであります。

協賛会の役員の皆様、実行委員の皆様には大変なご苦勞をおかけいたしますが、引き続きご協力をお願いいたします。また、これまでご寄付、ご協賛をいただきました多くの皆様並びに会館建設をいただきました東海興業様、村井建設様、坂野建設様、そして設計いただいた毛織設計事務所様に、心からお礼申し上げます。

湖陵同窓会の皆様には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。さて、平成八年度卒業式(第四十九回)には四〇九名の卒業生が学び舎を巣立ち、栄えある湖陵同窓会に仲間入りさせていただきました。先輩同窓会の皆様には、今後とも温かいご指導とご援助をいただきますようお願いいたします。



平成八年度概況

学校長 帰家 雄治

陸上、水泳が、冬季大会(釧路大会)へはアイスホッケー、フィギュアスケートが念願の出場を果たしました。また全国選抜大会にはハンドボール、柔道が出場を決めております。

話は変わりますが、昨年の九月の中旬、それまで工用のシートで覆われていた同窓会館が突如その姿を現しました。エンジと白を基調とした、斬新なデザインによる巨大な船を思わせるものです。環春探湖文化圏にまたひとつの名所が出現した感です。二十一世紀という海に向かって…この海は変化の激しい、見透しの良くない海と言われています。湖陵の歴史と伝統を満載してまさに出帆しようと、船先を下げていくかのようです。この同窓会館の建設は、旧校舍時代からの念願であったと聞きます。同窓会の皆様の大変なご努力があったものと拝察いたします。まさに皆様の母校に寄せられる熱意の結晶を見る思いです。大事にかつ有効に使わせてもらいます。今後とも一層のご支援をお願い申し上げます。

学校の現況を報告いたします。生徒たちは、先輩から受け継いだ校訓「誠・愛・勇」と「自由闊達」の校風のもと文武の両面にわたって日夜励んでおります。大学センター試験も終わり、今は、二次試験に向けて余念のないところですが、今年のセンター試験は三〇〇余名が受験し、例年と比較して良かったという概評が出ています。この勢いで二次でも頑張つて欲しいものです。就職では、十一名が公務員や民間に決まり、四月からの実社会への旅立ちを心待ちにしています。

今年度の全国総文祭は札幌市を主会場に開催され、本校からは、書道、写真、理科、図書、郷土研究各部が参加し、貴重な体験をさせていただきました。高体連全国大会へは、

今年度の全国総文祭は札幌市を主会場に開催され、本校からは、書道、写真、理科、図書、郷土研究各部が参加し、貴重な体験をさせていただきました。高体連全国大会へは、

同窓会館完成

構想から十有余年を経て、待望の我が同窓会館が完成いたしました。

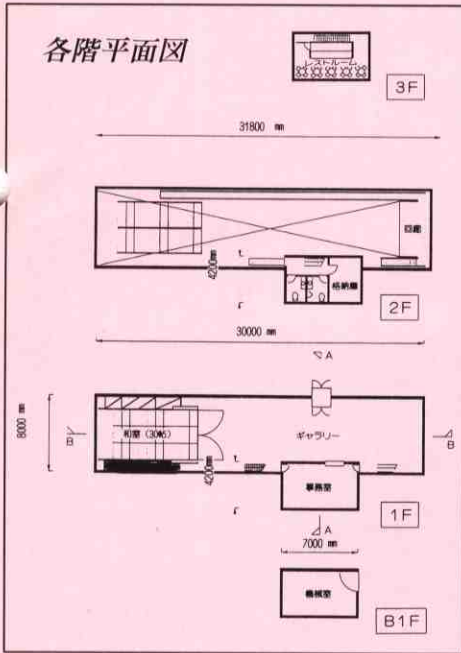
新装の建物は昨年十二月に竣工後、同窓会に引き渡し済み、本年二月、正式に北海道教育委員会に寄附が認められ供用開始の運びとなりました。

春採湖を望む新学舎の、向かって右手に完成した同窓会館は、日本建築界の鬼才、建築家、毛綱毅曠氏（湖陵二期）の設計によるものです。同氏の作品は釧路に数多く存在し、日本建築学会賞に輝く「釧路市博物館」をはじめとして、「東中学校」「湿原展望台」「フイツシャーマンズワーフターミナルビル」「釧路キャッスルホテル」など、時とともに環境になじみゆく部材を駆使し、丸みを帯びた独特のフォルムが氏の世界を形造っています。そして、わが同窓会館も毛綱氏の作品として、その一頁を飾るに相応しい印象的な建物となりました。施工は東海・村井・坂野共同企業体によるもので、優れた技術は設計図を忠実に具現化することができました。船をイメージしたというこの建物は、地下一階・地上三階建てで、床面積約

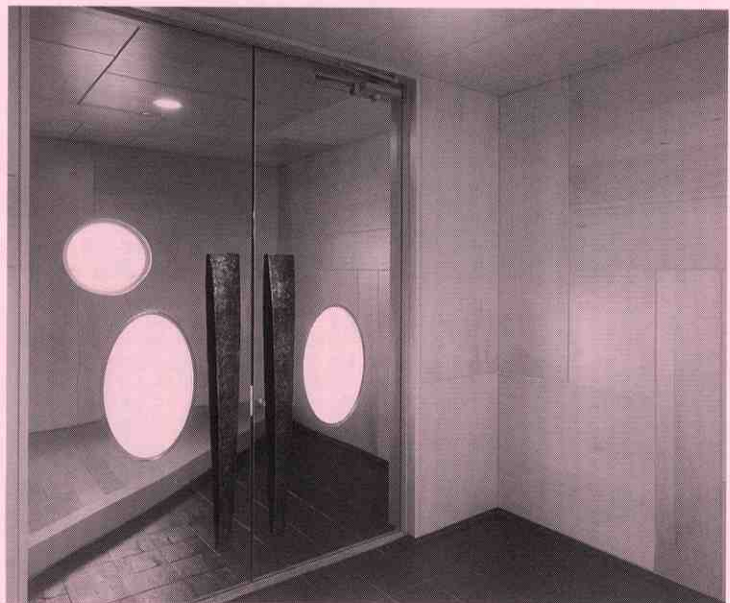
百二十坪ほどの大きさであるにも関わらず、その個性的な空間は、まさに毛綱ワールドそのものといえるでしょう。

湖陵の色「真紅」に半身を繰取られた部分の、下度その裏面にある入口はステンレス光沢仕上げの扉で、その中は風除室となっており、打ち出しの重厚な仕上げの取っ手に手をかけ中に入ると、訪問者はモノトーンの不思議な気分になります。しかし、この中にカラフルな芸術作品が展示され、人々の息吹が聞こえたとき、いったいこの建物はどのように機能してい

くのでしょうか。この空間は、まるではじめからここにあった洞窟のように、時がたち、風が吹き、人が訪れることで必要な変化を遂げていくような気がします。ここは間違いなくギャラリーであり、同窓会館と呼ばれる集いの場です。湖陵で時を過ごした者が、再び集う目印は完成しました。どのように機能させていくのかを、使用者に委ねられる楽しみな施設です。そして、もう一度だけ思い出してみましよう湖陵魂を……



2階スペースから会館内を観る



風除室



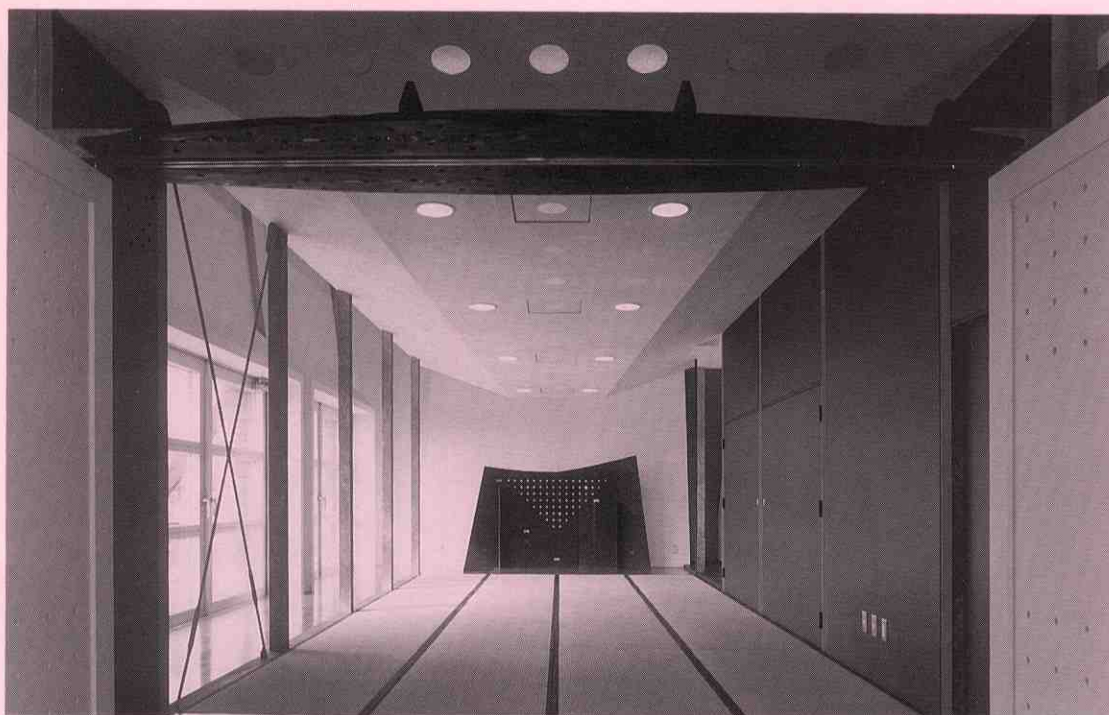
全 景



1階から望む会館内部



2階スペース



研修スペース

開放的な空間は、これからどのよう
に使われていくのでしょうか。
この会館は、ギャラリーとして、
在校生の憩いの場として、畳スベ
ースは同窓会やP・T・Aの各種会
合などに利用され、また、2階ス
ペースは洒落た喫茶フロアーとし
ても趣があります。



資料室



女子トイレ

男子トイレは青、女子は赤を基調
として、トイレにも独自の意匠が
こらされています。



男子トイレ

奥田 達也(釧高13期)の

誠愛勇から

藤井正亮の巻 (釧中13期)



なかった。放課後の運動部活動などはもちろんなし。

大正大学仏教学科へ入って弓道を始めたく昭和八年の明治節(現文化の日)に開催された第七回体育全国弓道大会で正大が準優勝した。四段であった。

卒えてすぐ先代藤井乗伝のもとで僧侶の修行につとめ、十五年死去とともに第六代住職に就任した。「死者の供養をしてほしい。各寺に連絡したが、残っている住職は藤井さんだけだ」敗戦の年七月十四日、二度にわたるグラマン機の

しかし、それを目撃した私には、記憶を語り継ぎ、平和への願いを確かなものにする使命がある。」

藤井は戦災で亡くなった人達のために毎年七月十四日法要を行なった。七年続け、のち各宗回り持ちとなる。十七回忌に大成寺本堂に、高さ三層の百万霊供養平和祈願大阿弥陀仏像を造立し安置した。宗祖法然上人の七百五十年忌を記念して造立された台座から十二

尺の金色の仏像。その胎内には釧路の戦没、戦災死者の名前が巻物に書きしるされて納められている。

に八十名の先を集めて開園した。寄附集めなし、銀行借り入れもできず講元になっての無尽講をし、檀家と一般の方の協力で四十万円を作った。

四十九年には現在の明照幼稚園舎を土地の売却代などで新築した。ここから果立った職員、園児は多い。八十五歳のいま住職、園長の座を長男正信に譲り、園に通う毎日である。

ボケ防止にと弓を始めたが、昔の強弓は勿論だめ。老身に合う弱い弓を求め、やっと弓をこなして日弓連審査で五段位となった。昭和六十三年の上京の際、母校を訪ねて驚いた。ジーパン姿の女子学生が余りに多くのカラフルさに、弓道場の影は何処にもない。「大慈の弓大悲の矢」というのに、

仏像の造立や幼稚園

母校弓道場に率先して寄附

来襲で釧路の街は猛火に包まれた。

藤井は十九年召集、当時復員していた。只一人、市役所の電話で指定の釧路公会堂前へ馳けつける。

そこには二十体ばかりだろうか、亡き骸が山となっていた。腕、足だけのもの、目が飛び出したもの。

蓮はかけてあったが、それらの顔は皆苦痛にゆがんでいた。棺桶などあるわけがない。死体は紫雲台墓地までトラックで運び、穴を掘って埋めるといふ……。

「あの地獄絵は二度と見たくない。」

「終戦後の混乱期、米町地区が一番非行青少年が多いといわれ環境も悪かったので、私はよい環境のもと幼児の保育から始めねばならぬと、かねて思っていました。二

十九年三月に公安委員を引退したので寺の教化事業にと総代・世話人会を開いて相談をもちかけたが、主旨は良いけれど……」

大根畑の寺の土地を個人的に借り、太平洋炭礦の旧配給所建物、別保古社宅等の払い下げを受け二

教室と遊戯室を建築し三十年四月

「大慈の弓大悲の矢」というのに、

「大慈の弓大悲の矢」というのに、

「大慈の弓大悲の矢」というのに、

「大慈の弓大悲の矢」というのに、

「大慈の弓大悲の矢」というのに、

御婚礼・御宴会・御会合・御宿泊

政府登録国際観光ホテル・日本ホテル協会会員

釧路パシフィックホテル

中村 隆(釧中27期)

釧路市栄町2丁目6番地 ☎24-8811

れんが屋★AM11:00～PM11:00

トロイカ★AM 8:00～PM11:00

パシフィックイン・八まき・八宝園

同期会だより

半世紀 拓いて生きて 熱情 いまも……

札幌当番(釧中30・31期)

森 幸 昭



惠庭をめぐる連山の
 溪谷流れ 急流にして
 金山 くだらないに色づけば
 落ちる紅葉の はらはらと
 多感なりし吾等 なみだして
 時代の移り想わなん

インテアン水車から、支笏湖經由本年度の会場宿泊地、丸駒温泉に向かうバスの中でふと、こんな文句が頭の中に浮かんできた。

平成八年十月十四日、釧中三十

・三十一期・全国同期会が、本年は札幌ブロック当番で、千歳の支笏湖畔「丸駒温泉旅館」で開催された。

三十・三十一期のメンバー構成概要については、「くまざき」三十三号で、東京当番の大畑君が詳細に述べているので、この稿では省略するが、本年も六十三名の仲間(夫人十六名参加含)と顔を合わせる事ができた。

只、残念な事は、昨年の伊豆・箱根大会時に於ては、我々同期中のこれまでの物故者が六十五名であったのが、本大会時には七十一名になっていたことである。

この会のメンバーは、これから年々減少一方で増える事があり得ない会合だからこそ、七夕同様一年一度の会合は、お互いが生きてきた証しであり、生命の贅え合いの場でもあらうと考えている。

戦後の卒業以来半世紀、不安と希望を失った虚脱状態の続く生活の中を、ひたすらがむしやらに生きて、新しい日本の復興のために新しい世紀を、己の手で拓いてきたというその自負は、一人一人の胸の奥に今も熱く、強く燃えている。

そんな連中の会合なので、ふだんは敬老手帳を手にし、日頃何かと医者に禁止、節制を申し渡されている者も、この一週だけは、い

つの間にか忘却し、半世紀前の紅顔の美少年?を気取り、熱気ムンムンの一刻が展開される。

宴は、むさくしい元バンカラ男のグミ声ばかりでなく、時にはセーラー服持参?の元ミス〇〇夫人達の甘い歌声で華を副えてくれるのが元気回復の刺激剤ともなり「おい」「お前」の談笑は一層エスカレートして夜明けの露天ぶらまてつづく……。

幸い、この会のメンバーには、名医あり、高僧あり、加えて、老人福祉専門の元国務大臣も参加しているのが、何が起っても即対応できる頼もしい会でもある。

秋の夜長もこのようにして一夜開けると、つわもの共の夢の跡ならぬ、夢も見ずしてもう一杯と



編集後記

春暖快適。長い冬のトンネルを抜け出て、ほのぼのと早春!

年めぐり、後輩の船出、卒業の季節がやって来た。第35号の刊行で、今回も多くの会員の投稿によってできあがった。へ誠愛勇を信条に学習したものとって、本当にめでたいことである。13年ぶりの冬の国体が丹頂から湿原と変わって名付けられ連日の熱戦も無事めでたく終了した。めでたいと言えはもう一つ、同窓生第8回湖陵卒の前市長鯉淵俊之氏に代わって昨秋より第17回湖陵卒の綿貫健輔氏が「人は街なり」を掲げて釧路市長に就任された。我々にとって嬉しく同窓の誇りである。生活に豊かさど町に活気がでるよう、その活躍に期待する処である。年二回の発行であるが、会員の情報連絡やご投稿を心からお待ちしている。(上岡記)

くまざき編集委員会

同窓会々長 久本 甫

同窓会幹事長 関口 政司

編集委員長 上岡 信明

編集委員 奥田 達也

平野清次郎

石川 和男

※この原稿を書き終えた頃、札幌代表監事の石井君から電話、計報入る。

惠庭在住の高杉君 死去、瞑目合掌して、筆を擱きます。

いう元氣者もいるから、これからの高令化社会健在なりと言うべきか。

何はともあれ、札幌当番の同期会は、一泊二日の日程で終了した。本年度は卒業以来満五十年間ということで、釧路大会実施に決定。

九月二十八日、同期物故者追悼法要を市内で執り行い、その後阿寒湖畔で開催との事。

お互い再会を約して十五日解散。

